

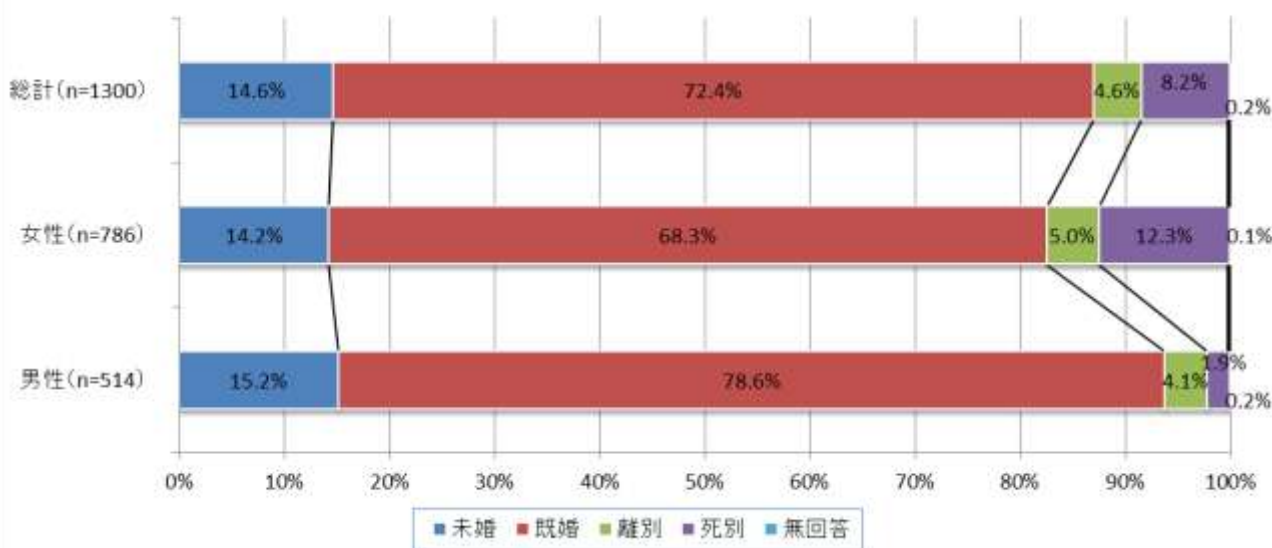
3 配偶者からの被害経験について

(1) 配偶者の有無

未既婚にかかわらず、現在または過去における配偶者の有無を聞いたところ、「既婚」(72.4%)は、7割であった。男女別にみると、「既婚」は男性が10.3ポイント多くなっている。(図3-1)

問 5 あなたは、現在、結婚していますか。(事実婚、別居中を含む。)あてはまる番号に○をつけてください。(○はひとつ)

図3-1 未既婚の有無



(人)

	未婚	既婚	離別	死別	無回答
総計 (n=1,300)	190	941	60	107	2
女性 (n=786)	112	537	39	97	1
男性 (n=514)	78	404	21	10	1

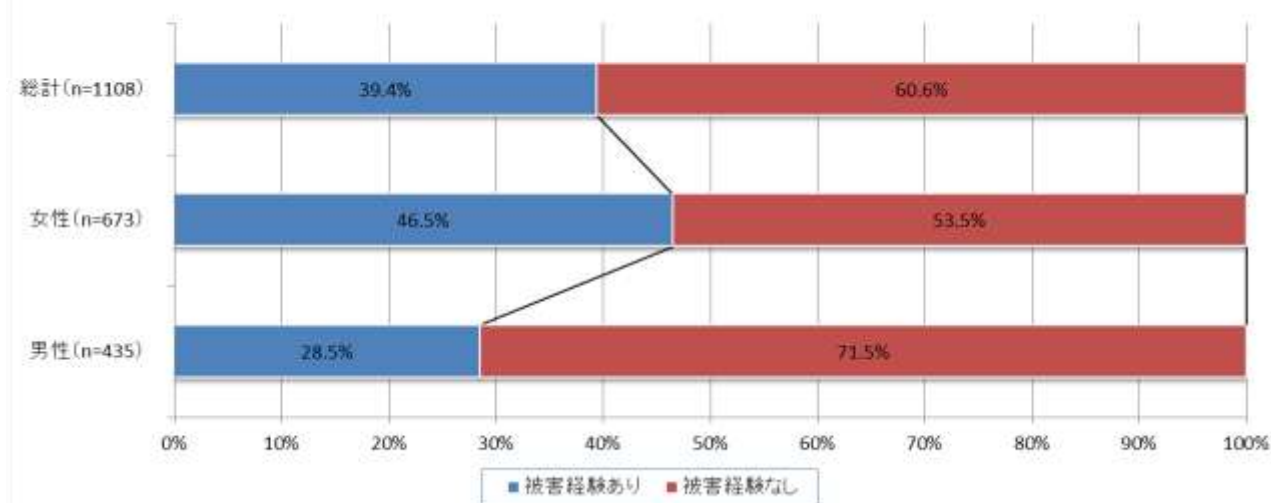
(2) 配偶者からの被害経験

現在もしくは過去に配偶者がいる（いた）と答えた人（1,108人）に、配偶者からの被害経験について聞いたところ、20種類の被害行為でひとつでも「1、2度あった」、「何度もあった」と答えた人を「被害経験あり」としてまとめた。

全体では、39.4%の人が何らかの被害経験があるとなっている。男女別では被害経験があると答えた人が男性では28.5%に対し、女性では46.5%と女性が男性を18ポイント上回っている。（図3-2-1）

問 6 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のような行為をされたことがありますか。A～Tのそれぞれについて、1～3のあてはまる番号に○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

図3-2-1 配偶者からの被害経験の有無



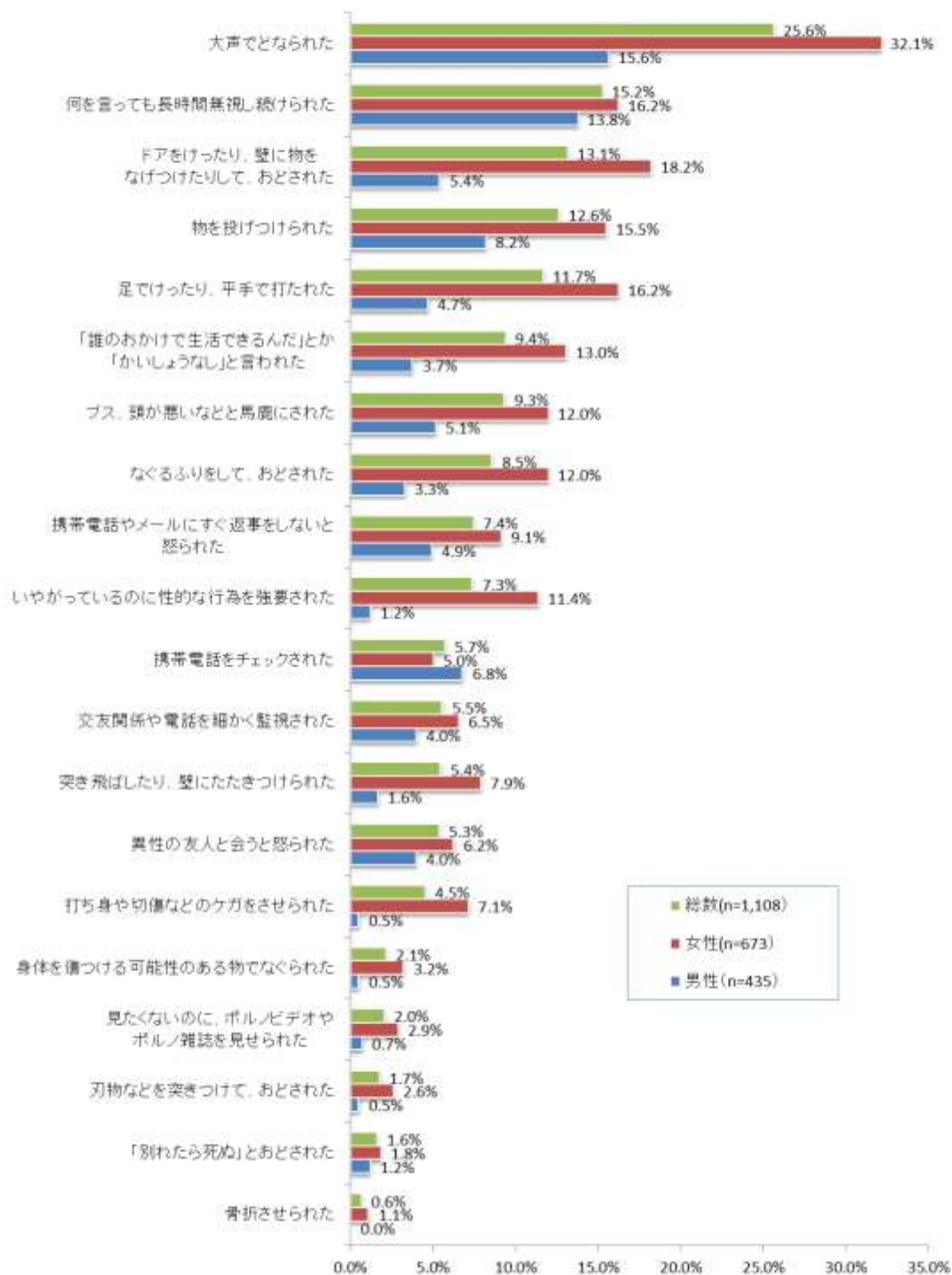
(人)

	被害経験あり	被害経験なし
総計 (n=1108)	437	671
女性 (n=673)	313	360
男性 (n=435)	124	311

現在もしくは過去に配偶者がいる（いた）と答えた人(1,108人)に、20種類の行為について、これまで被害を受けたことがあるかを聞いた。（注）

男女別にみると、「携帯電話をチェックされた」は、男性の被害経験が女性を上回っているものの、それ以外のすべての行為において、女性の被害経験が男性を上回っている。（図3-2-2）

図3-2-2 配偶者からの被害経験 内訳



（注） 配偶者がいる（いた）人のうち、暴力が「1、2度あった」と「何度もあった」人数を足した人の割合。

### 3 配偶者からの被害経験について

(人)

1、2度あった+何度もあった人	全体			男性内訳			女性内訳		
	男性 (n=435)	女性 (n=673)	総数 (n=1,108)	1、2度 あった	何度も あった	計	1、2度 あった	何度も あった	計
骨折させられた	0	7	7	0	0	0	6	1	7
打ち身や切傷などのケガをさせられた	2	47	49	2	0	2	35	12	47
身体を傷つける可能性のある物でなぐられた	2	21	23	2	0	2	14	7	21
突き飛ばしたり、壁にたたきつけられた	7	52	59	7	0	7	35	17	52
足でけったり、平手で打たれた	20	107	127	17	3	20	87	20	107
物を投げつけられた	35	102	137	34	1	35	77	25	102
刃物などを突きつけて、おどされた	2	17	19	2	0	2	16	1	17
なぐるふりをして、おどされた	14	79	93	14	0	14	58	21	79
ドアをけったり、壁に物をなげつけたりして、おどされた	23	120	143	20	3	23	89	31	120
何を言っても長時間無視し続けられた	59	107	166	53	6	59	79	28	107
交友関係や電話を細かく監視された	17	43	60	14	3	17	25	18	43
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われた	16	86	102	13	3	16	57	29	86
大声でどなられた	67	212	279	56	11	67	122	90	212
携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒られた	21	60	81	19	2	21	37	23	60
ブス、頭が悪いなどと馬鹿にされた	22	79	101	17	5	22	48	31	79
「別れたら死ぬ」とおどされた	5	12	17	3	2	5	8	4	12
携帯電話をチェックされた	29	33	62	22	7	29	18	15	33
異性の友人と会うと怒られた	17	41	58	15	2	17	27	14	41
いやがっているのに性的な行為を強要された	5	75	80	5	0	5	41	34	75
見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	3	19	22	3	0	3	15	4	19

(男性)

男性については、「大声でどなられた」、「何を言っても長時間無視し続けられた」、「物を投げつけられた」の順に多い。その他の行為で「何度もあった」という回答は、ほとんどが1%未満となっている。(図 3-2-3)

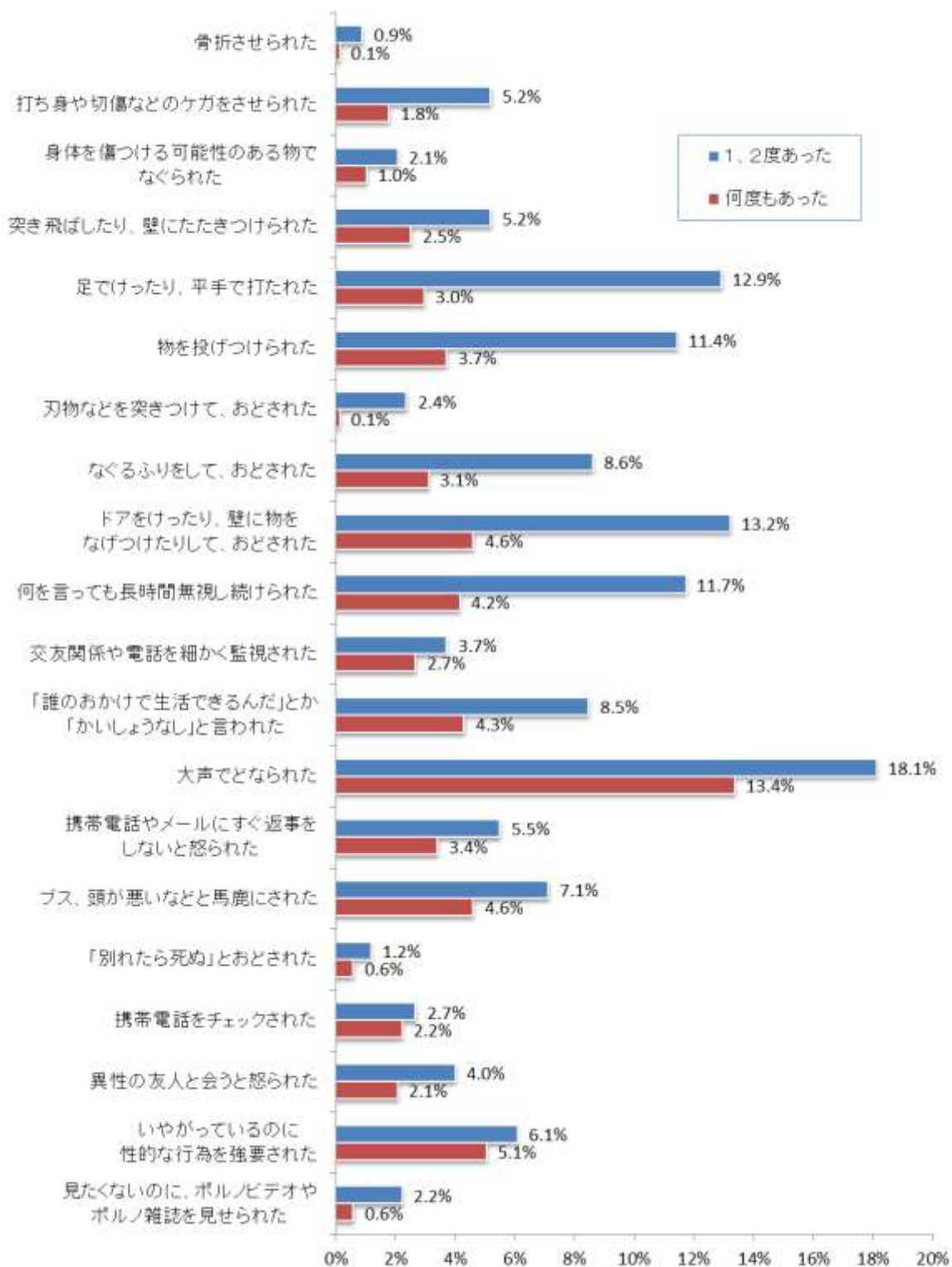
図3-2-3 配偶者からの被害経験 内訳(男性)



(女性)

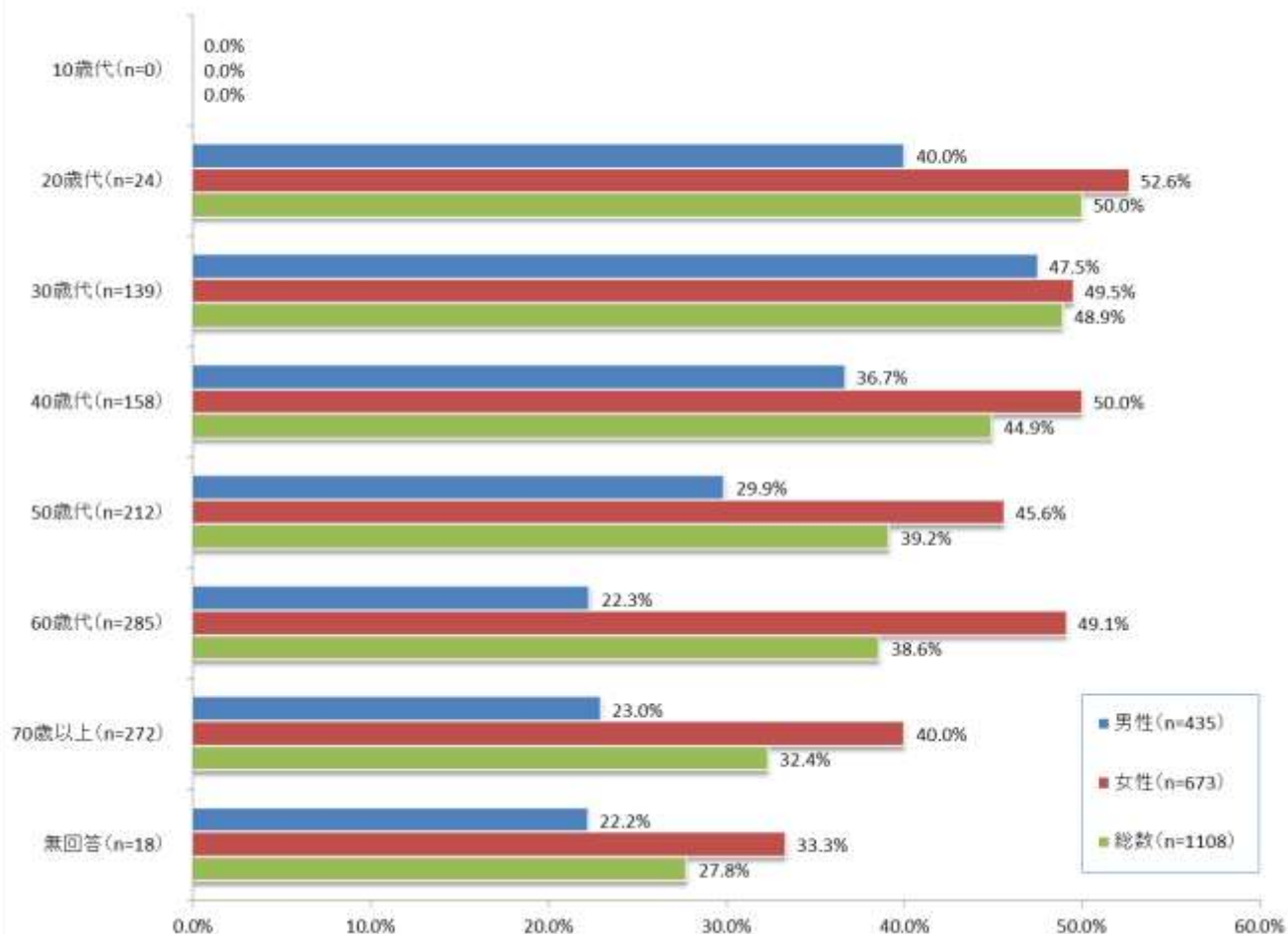
女性については、「大声でどなられた」、「ドアをけったり、壁に物をなげついたりして、おどされた」、「足でけったり、平手で打たれた」の順が多い。「何度もあった」という回答は、「大声でどなられた」(13.4%)など6項目で4%を超えている。(図3-2-4)

図3-2-4 配偶者からの被害経験 内訳(女性)



被害経験がある人（注）について、性・年代別にみると、男女での格差はあるものの、10歳代を除き、どの年代でも被害経験がある。なお、10歳代は回答対象となる既婚者がいない。（図3-2-5）

図3-2-5 配偶者からの被害経験（性・年代別）



(人)

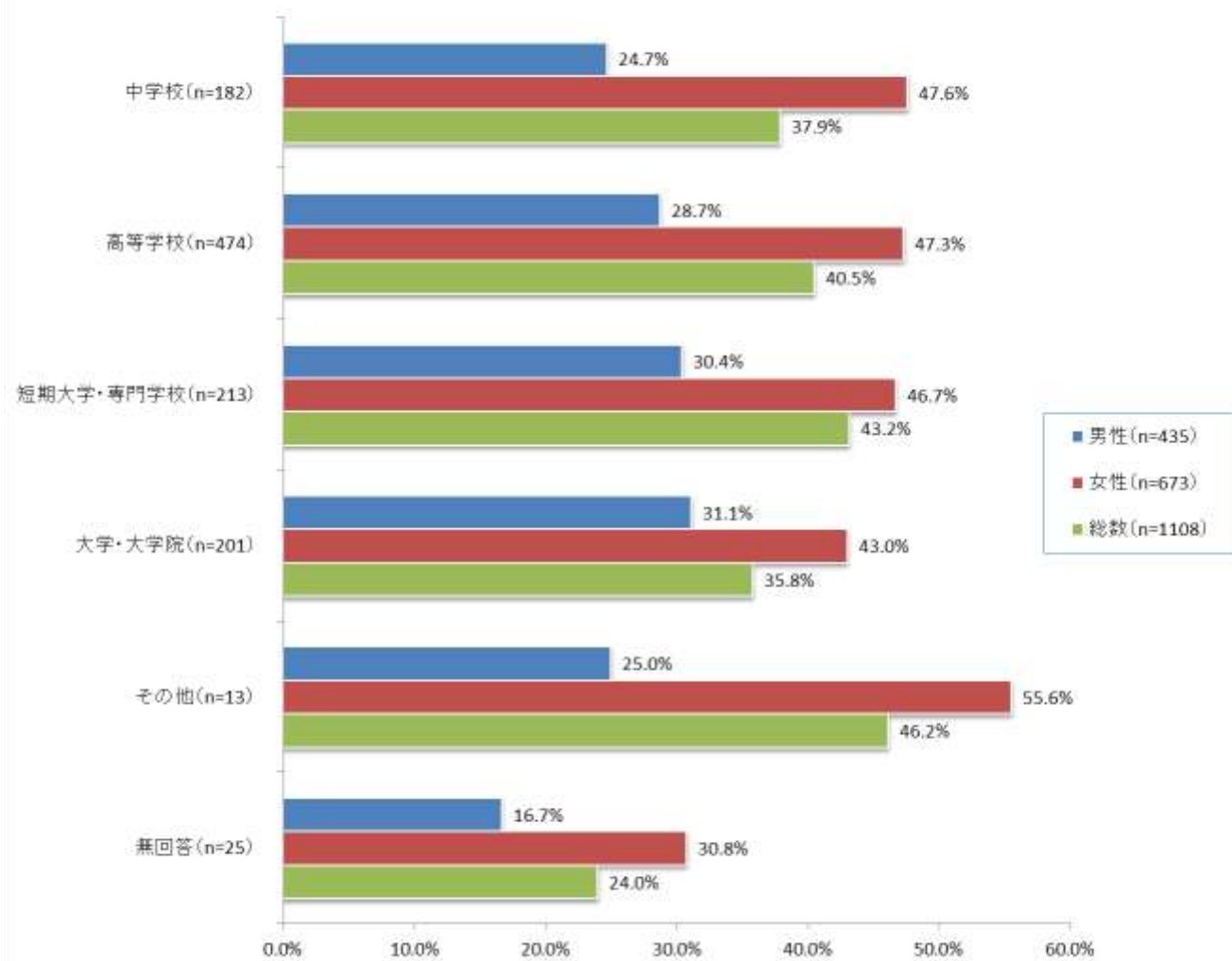
	配偶者がいる(いた)			うち被害経験あり		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性
10歳代 (n=0)	0	0	0	0	0	0
20歳代 (n=24)	24	5	19	12	2	10
30歳代 (n=139)	139	40	99	68	19	49
40歳代 (n=158)	158	60	98	71	22	49
50歳代 (n=212)	212	87	125	83	26	57
60歳代 (n=285)	285	112	173	110	25	85
70歳以上 (n=272)	272	122	150	88	28	60
無回答 (n=18)	18	9	9	5	2	3

(注)「被害経験がある人」とは、問6の20種類の暴力のうち、どれかひとつでも経験があると回答した人。



被害経験がある人について、性・学歴別にみると、男女での格差はあるものの、男女とも学歴に関係なく被害経験がある。(図 3-2-6)

図3-2-6 配偶者からの被害経験(性・学歴別)



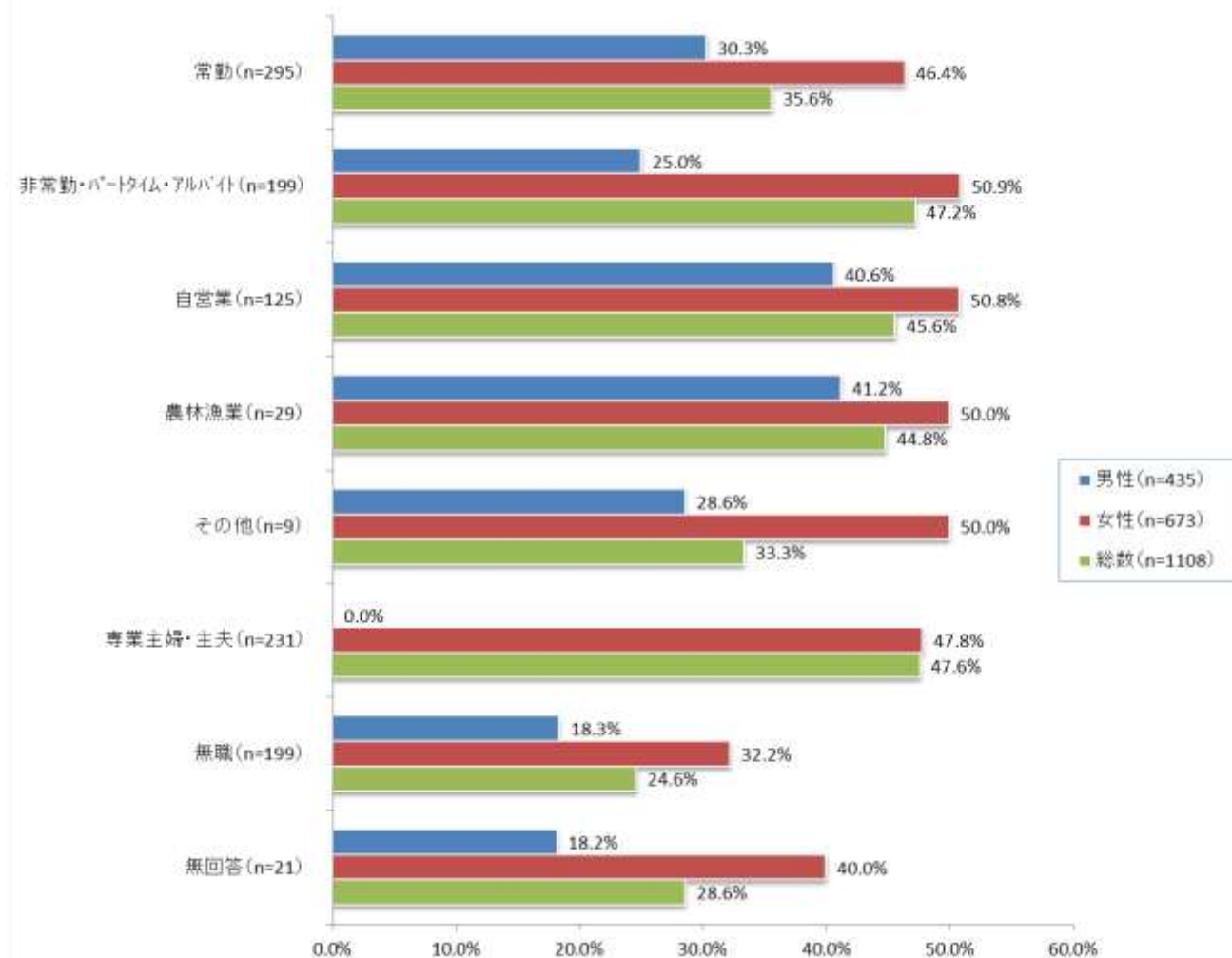
(人)

	配偶者がいる(いた)			うち被害経験あり		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性
中学校(n=182)	182	77	105	69	19	50
高等学校(n=474)	474	174	300	192	50	142
短期大学・専門学校(n=213)	213	46	167	92	14	78
大学・大学院(n=201)	201	122	79	72	38	34
その他(n=13)	13	4	9	6	1	5
無回答(n=25)	25	12	13	6	2	4



被害経験がある人について、性・職業別にみると、男女での格差はあるものの、「専業主婦・主夫」の男性を除き、職業に関係なくいずれも被害経験がある。(図 3-2-7)

図3-2-7 配偶者からの被害経験(性・職業別)

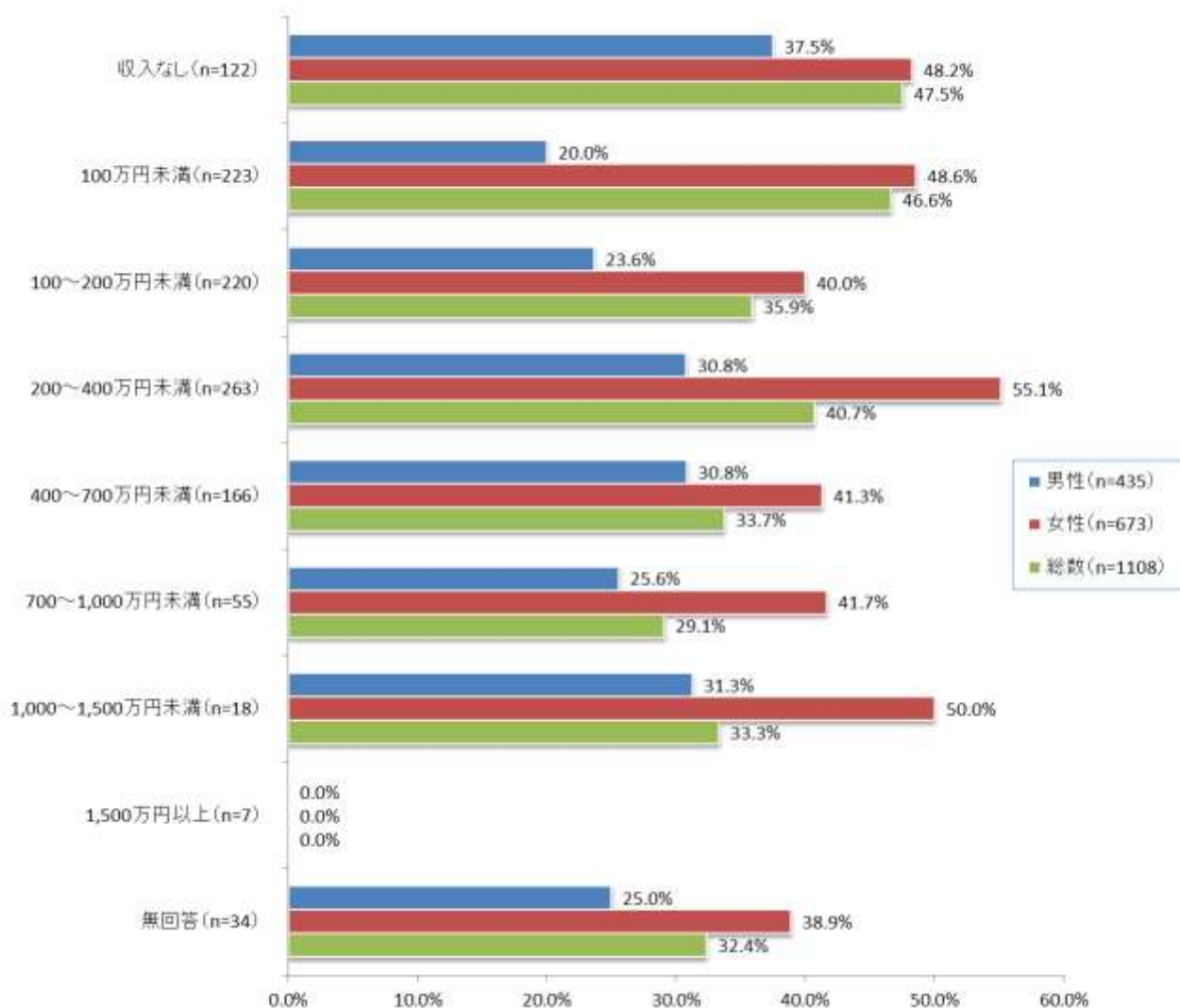


(人)

	配偶者がいる(いた)			うち被害経験あり		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性
常勤(n=295)	295	198	97	105	60	45
非常勤・パートタイム・アルバイト(n=199)	199	28	171	94	7	87
自営業(n=125)	125	64	61	57	26	31
農林漁業(n=29)	29	17	12	13	7	6
その他(n=9)	9	7	2	3	2	1
専業主婦・主夫(n=231)	231	1	230	110	0	110
無職(n=199)	199	109	90	49	20	29
無回答(n=21)	21	11	10	6	2	4

被害経験がある人について、性・年収別にみると、男女での格差はあるものの、「1,500万円以上」の男女を除き、全ての層で被害経験がある。(図 3-2-8)

図3-2-8 配偶者からの被害経験(性・年収別)



(人)

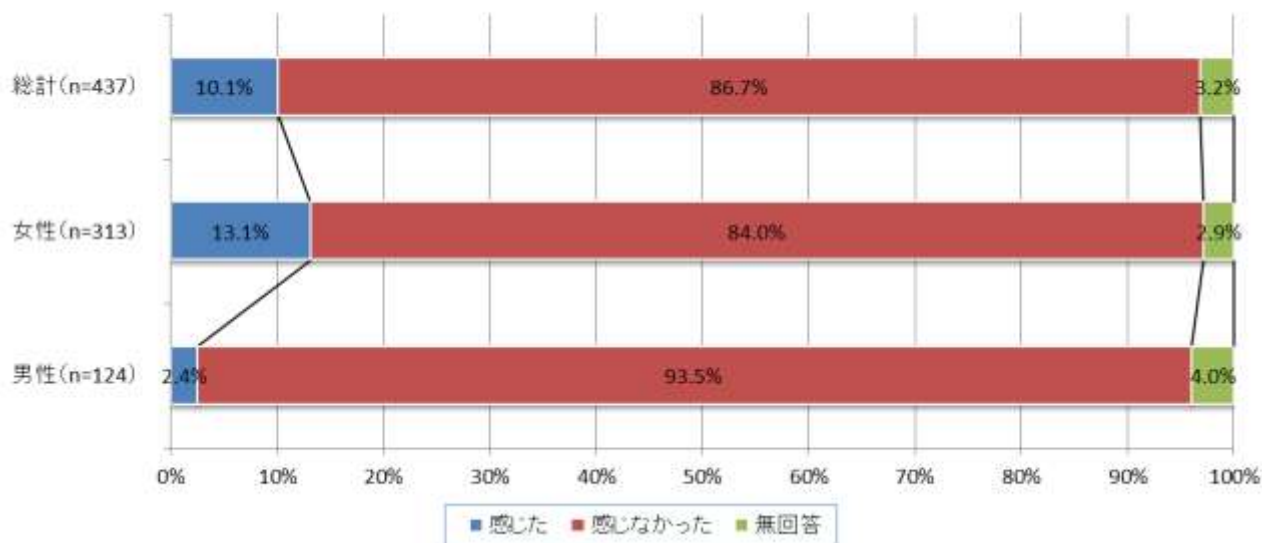
	配偶者がいる(いた)			うち被害経験あり		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性
収入なし(n=122)	122	8	114	58	3	55
100万円未満(n=223)	223	15	208	104	3	101
100～200万円未満(n=220)	220	55	165	79	13	66
200～400万円未満(n=263)	263	156	107	107	48	59
400～700万円未満(n=166)	166	120	46	56	37	19
700～1,000万円未満(n=55)	55	43	12	16	11	5
1,000万円～1,500万円未満(n=18)	18	16	2	6	5	1
1,500万円以上(n=7)	7	6	1	0	0	0
無回答(n=34)	34	16	18	11	4	7

(3) 命の危険を感じた経験

配偶者からの行為によって命の危険を「感じた」(10.1%)という人は、1割となっている。これを男女別にみると、男性 2.4%、女性 13.1%で、女性が男性を 10.7 ポイント上回っている。(図 3-3)

問 7-① あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

図3-3 命の危険を感じた経験



(人)

	感じた	感じなかった	無回答
総計 (n=437)	44	379	14
女性 (n=313)	41	263	9
男性 (n=124)	3	116	5

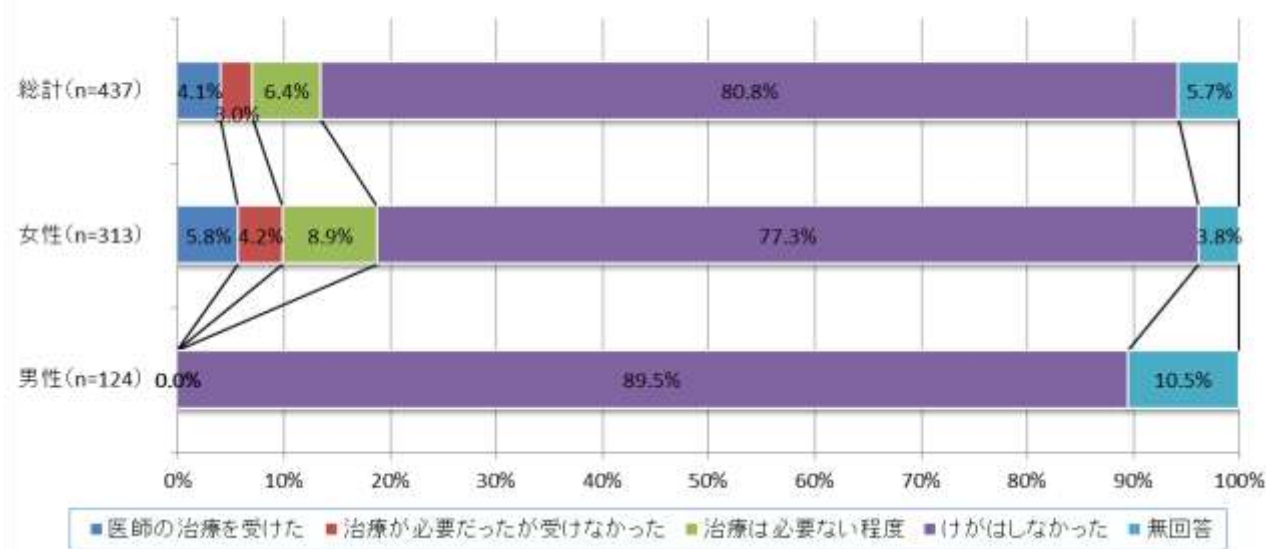
(4) 暴力行為によるケガ

配偶者からの行為により、「ケガをして医師の治療を受けた」人は 4.1%、「治療が必要だったが受けなかった」人が 3.0%となっている。

男女別でみると、「治療を受けた」及び「治療が必要だったが受けなかった」人は、全て女性となっている。(図 3-4)

問 7-② あなたはこれまでに、その相手の行為によって、ケガをしたり、医師の治療を受けたりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○は1つ)

図3-4 暴力行為によるケガ



(人)

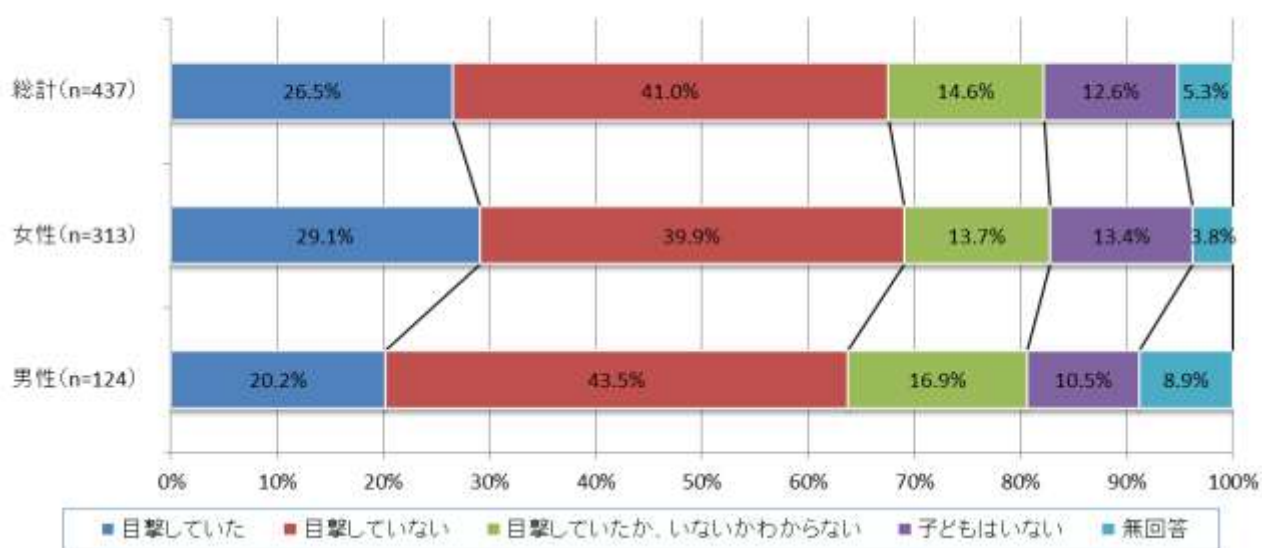
	医師の治療を受けた	治療が必要だったが受けなかった	治療は必要ない程度	けがはしなかった	無回答
総計 (n=437)	18	13	28	353	25
女性 (n=313)	18	13	28	242	12
男性 (n=124)	0	0	0	111	13

(5) 子どもによる暴力の目撃

配偶者からの暴力行為を受けた時に、子どもが目撃していたかどうかを聞いたところ、「目撃していた」という人が 26.5%、「目撃していない」という人が 41.0%となっている。(図 3-5)

問 7-③ あなたが、その相手からの行為を受けたときに、あなたのお子さんはそれを目撃していましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○は1つ)

図3-5 子どもによる目撃



(人)

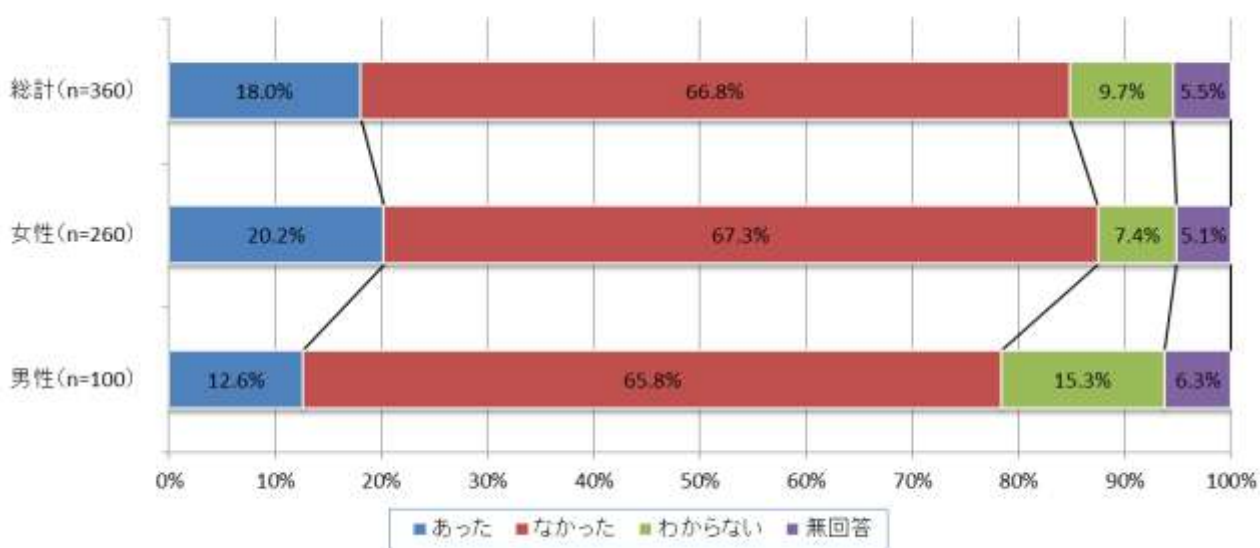
	目撃していた	目撃していない	目撃していたか、 いないか わからない	子どもはいない	無回答
総計 (n=437)	116	179	64	55	23
女性 (n=313)	91	125	43	42	12
男性 (n=124)	25	54	21	13	11

(6) 子どもに対する暴力

配偶者から暴力行為を受けていた当時子どもがいた人(360人)に、その相手が子どもに対しても同様な行為をしたことがあったかを聞いたところ、「あった」という人が18.0%、「なかった」という人が66.8%となっている。(図3-6)

問 7-④ その相手は、あなたのお子さんに対して、あなたがされたのと同じような行為をしたことがありましたか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

図3-6 子どもに対する暴力



(人)

	あった	なかった	わからない	無回答
総計(n=360)	69	256	37	21
女性(n=260)	55	183	20	14
男性(n=100)	14	73	17	7

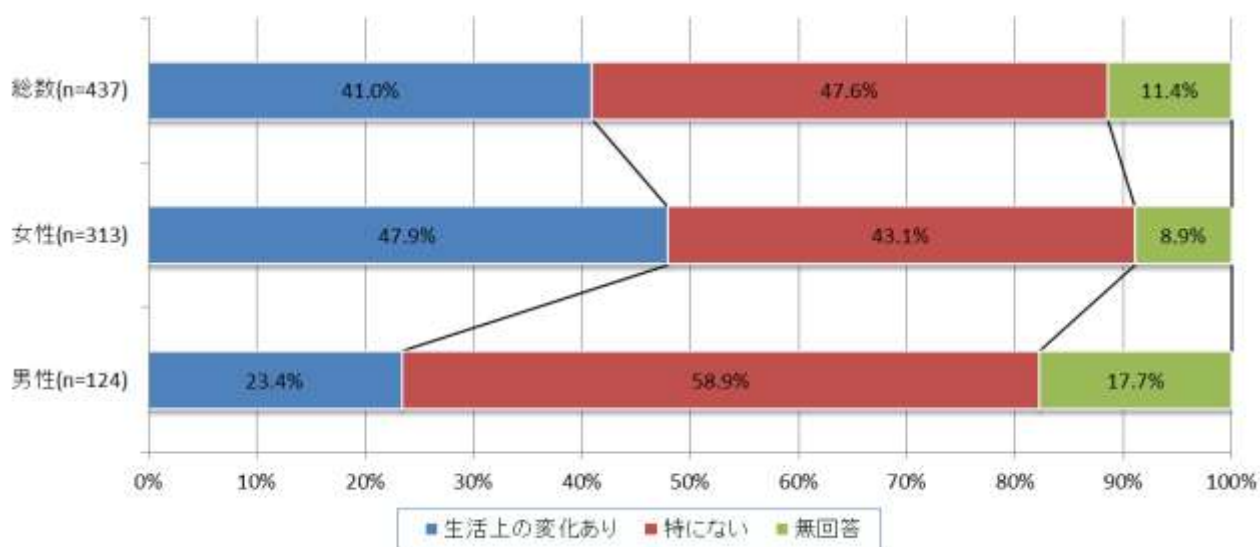
(7) 暴力による影響

配偶者からの暴力によって受けた心身や生活への影響を聞いたところ、何らかの変化があったと回答した人を「生活上の変化あり」としてまとめた。「生活上の変化あり」と回答した人は、全体で41.0%となり、半数を占める。

男女別では、「生活上の変化あり」と回答した女性(47.9%)が、男性(23.4%)を24.5ポイント上回っている。(図3-7-1)

問 7-⑤ あなたはこれまでに、その相手の行為によって、あなたの心身や生活に次のような変化が生じましたか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はいくつでも)

図3-7-1 配偶者からの被害による生活上の変化（全体）



(人)

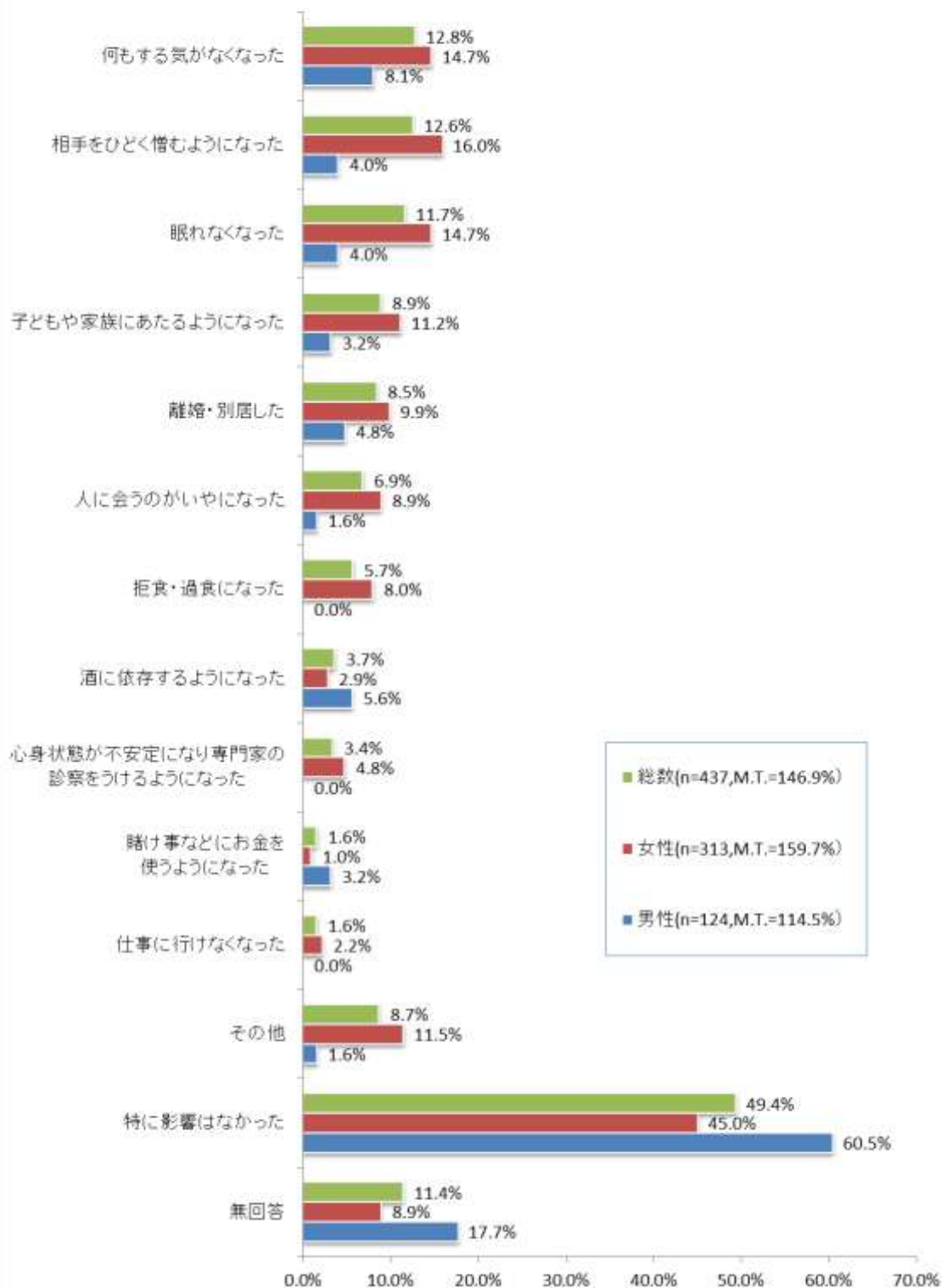
	生活上の変化あり	特に影響はなかった	無回答
総数(n=437)	179	208	50
女性(n=313)	150	135	28
男性(n=124)	29	73	22

※ 問7-⑤で、「13. 特に影響はなかった」と、それ以外の「心身や生活に変化」があったとする12項目の和を対比した。



生活上の変化の内容をみると、全体では「何もする気がなくなった」(12.8%)が最も多い。「特に影響はなかった」(49.4%)とする男性は60.5%で、女性の45.0%を15.5ポイント上回っている。(図3-7-2)

図3-7-2 配偶者からの被害による生活上の変化 内訳（複数回答）



### 3 配偶者からの被害経験について

(人)

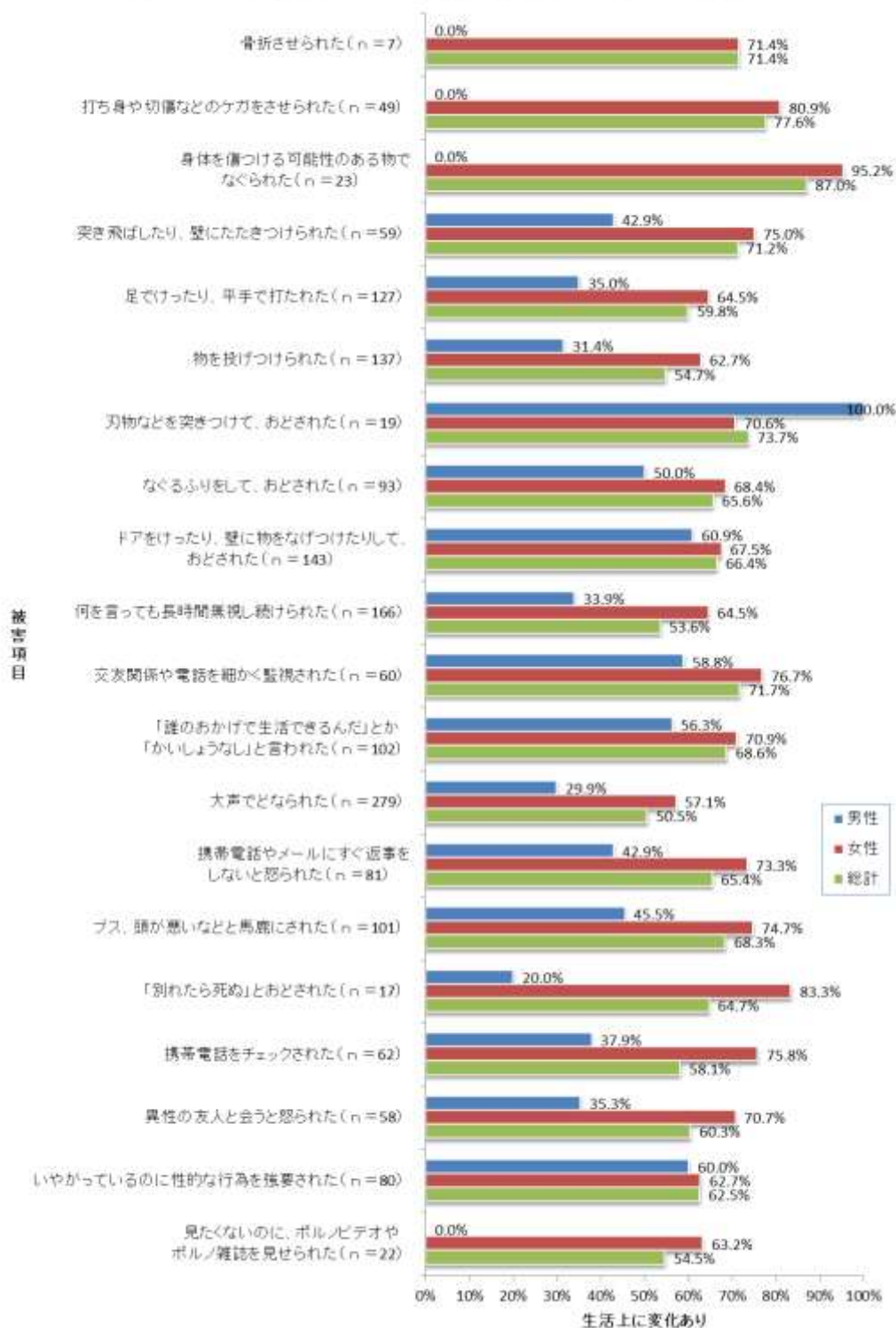
	男性(n=124)	女性(n=313)	総数(n=437)
子どもや家族にあたるようになった	4	35	39
心身状態が不安定になり専門家の診察をうけるようになった	0	15	15
眠れなくなった	5	46	51
何もする気がなくなった	10	46	56
仕事に行けなくなった	0	7	7
人に会うのがいやになった	2	28	30
拒食・過食になった	0	25	25
酒に依存するようになった	7	9	16
賭け事などにお金を使うようになった	4	3	7
相手をひどく憎むようになった	5	50	55
離婚・別居した	6	31	37
その他	2	36	38
特に影響はなかった	75	141	216
無回答	22	28	50

(被害項目別 生活上の変化)

配偶者から暴力を受けたことによる心身や生活への影響について、被害項目別にみると、「身体を傷つける可能性のある物でなぐられた」(87.0%)、「打ち身や切傷などのケガをさせられた」(77.6%)の順に多い。

男女別にみると、「刃物などを突きつけて、おどされた」以外のすべての行為で、女性が男性を上回っている。(図 3-7-3)

図3-7-3 配偶者からの被害項目別 生活上の変化



### 3 配偶者からの被害経験について

(人)

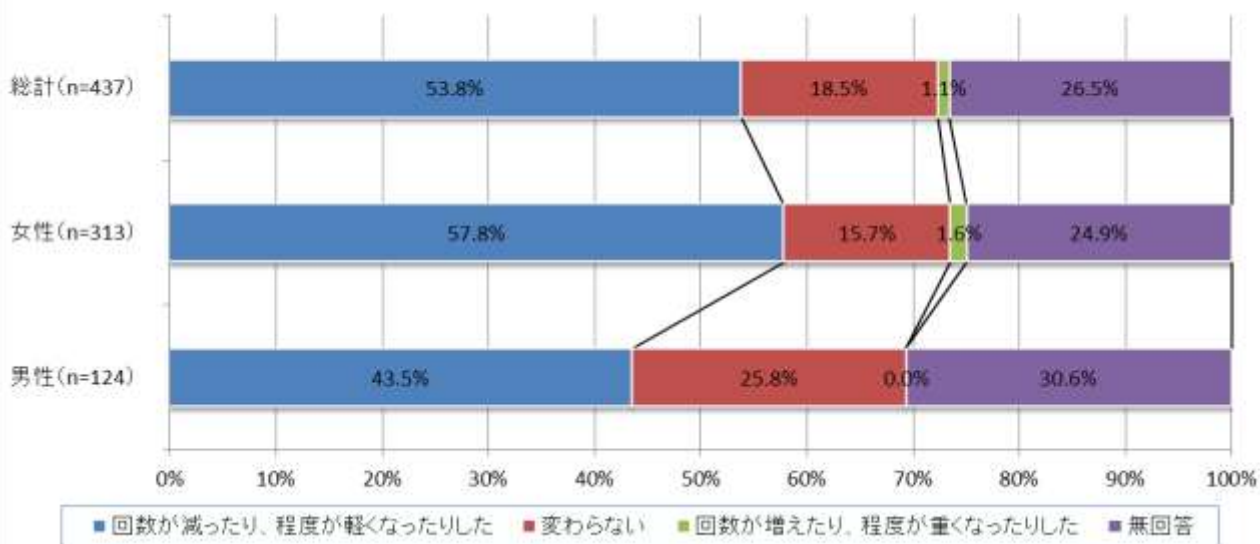
	被害経験あり			うち生活上の変化あり		
	男性	女性	総計	男性	女性	総計
骨折させられた(n=7)	0	7	7	0	5	5
打ち身や切傷などのケガをさせられた(n=49)	2	47	49	0	38	38
身体を傷つける可能性のある物でなぐられた(n=23)	2	21	23	0	20	20
突き飛ばしたり、壁にたたきつけられた(n=59)	7	52	59	3	39	42
足でけったり、平手で打たれた(n=127)	20	107	127	7	69	76
物を投げつけられた(n=137)	35	102	137	11	64	75
刃物などを突きつけて、おどされた(n=19)	2	17	19	2	12	14
なぐるふりをして、おどされた(n=93)	14	79	93	7	54	61
ドアをけったり、壁に物をなげつけたりして、おどされた(n=143)	23	120	143	14	81	95
何を言っても長時間無視し続けられた(n=166)	59	107	166	20	69	89
交友関係や電話を細かく監視された(n=60)	17	43	60	10	33	43
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われた(n=102)	16	86	102	9	61	70
大声でどなられた(n=279)	67	212	279	20	121	141
携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒られた(n=81)	21	60	81	9	44	53
ブス、頭が悪いなどと馬鹿にされた(n=101)	22	79	101	10	59	69
「別れたら死ぬ」とおどされた(n=17)	5	12	17	1	10	11
携帯電話をチェックされた(n=62)	29	33	62	11	25	36
異性の友人と会うと怒られた(n=58)	17	41	58	6	29	35
いやがっているのに性的な行為を強要された(n=80)	5	75	80	3	47	50
見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた(n=22)	3	19	22	0	12	12

(8) 暴力行為の増減

配偶者からの暴力について、最近の状況を聞いたところ、「回数が減ったり、程度が軽くなったりした」(53.8%)が過半数を占めている。(図 3-8)

問 7-⑥ 最近、その相手からの行為は、以前に比べて何か変化はありましたか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

図3-8 配偶者からの暴力行為の増減



(人)

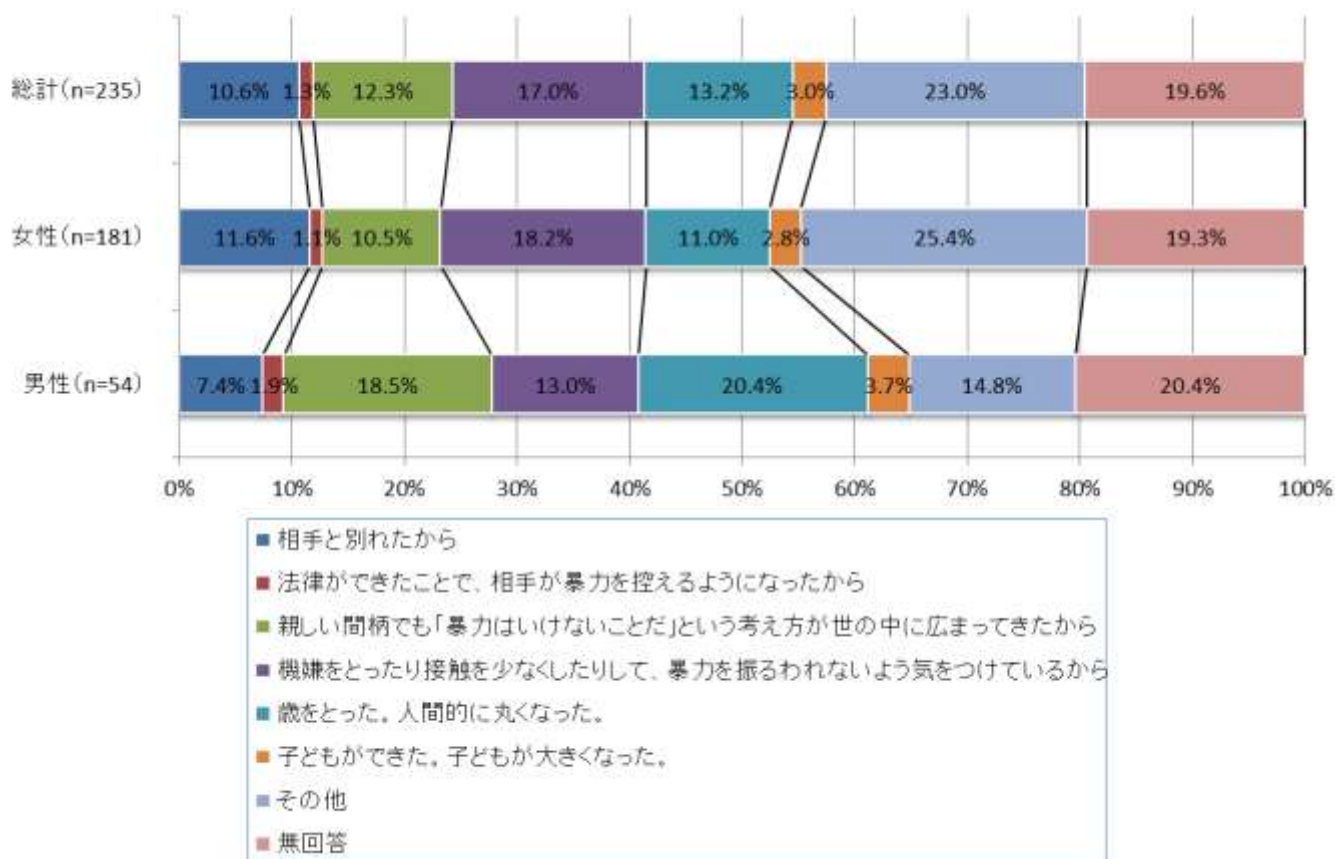
	回数が減ったり、回数が軽くなった	変わらない	回数が増えたり、程度が重くなったりした	無回答
総数(n=437)	235	81	5	116
女性(n=313)	181	49	5	78
男性(n=124)	54	32	0	38

(9) 暴力行為減少の理由

暴力行為の減少の理由について聞いたところ、女性では「機嫌をとったり接触を少なくしたりして、暴力を振るわれないように気をつけているから」(18.2%)が「その他」及び「無回答」を除き一番多く、男性の13.0%と比べ、5.2ポイント上回っている。(図3-9)

問7-⑦ その理由は何だと思えますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○は1つ)

図3-9 配偶者からの暴力行為 減少の理由



(人)

	相手と別れたから	法律ができたことで、相手が暴力を控えるようになったから	親しい間柄でも「暴力はいけないことだ」という考え方が世の中に広まってきたから	機嫌をとったり接触を少なくしたりして、暴力を振るわれないよう気をつけているから	歳をとった。人間的に丸くなった。	子どもができた。子どもが大きくなった。	その他	無回答
総計(n=235)	25	3	29	40	31	7	54	46
女性(n=181)	21	2	19	33	20	5	46	35
男性(n=54)	4	1	10	7	11	2	8	11

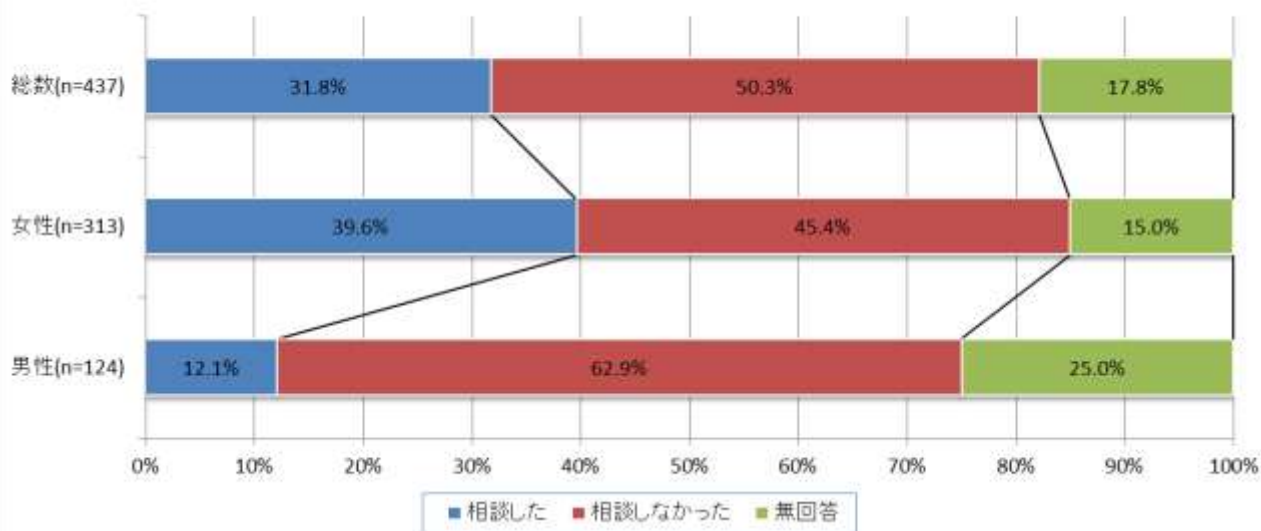
(10) 暴力に対する相談先

配偶者から受けた行為に対する相談先を聞いたところ、いずれかに相談したと回答した人を「相談した」としてまとめた。「相談した」と回答した人は、全体で 31.8%に対し、「相談しなかった」人は、50.3%と過半数を占める。

男女別では、「相談した」人は、女性で 39.6%、男性で 12.1%と、女性のほうが 27.5ポイント多い。(図 3-10-1)

問7-⑧ あなたはこれまでに、配偶者や恋人からうけた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図3-10-1 配偶者からの暴力に対する相談の有無



(人)

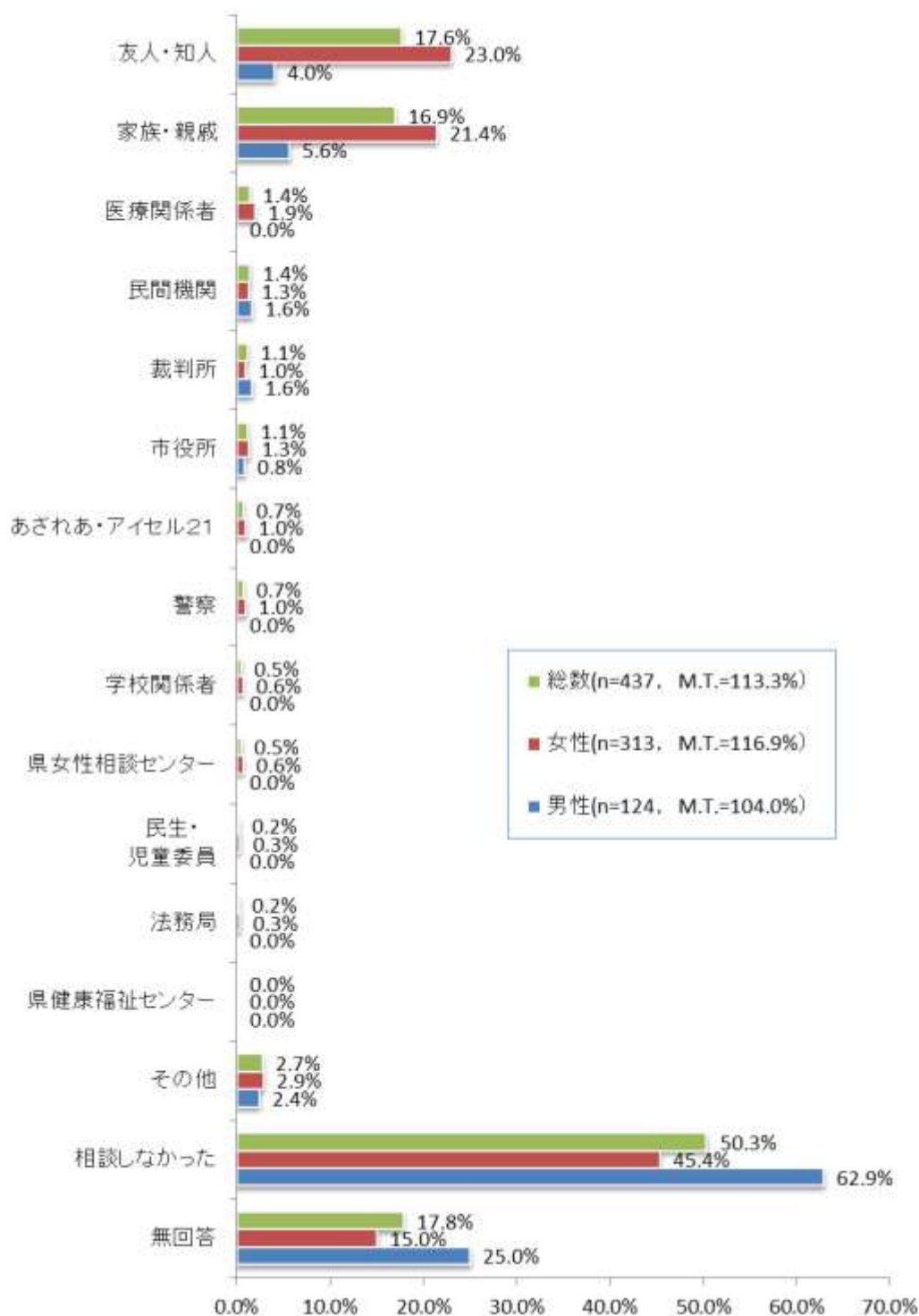
	相談した	相談しなかった	無回答
男性(n=124)	15	78	31
女性(n=313)	124	142	47
総数(n=437)	139	220	78



相談先をみると、全体では「友人・知人」(17.6%)、「家族・親戚」(16.9%)の順に多くなっている。

男女とも「どこ(だれ)にも相談しなかった」が最も多く、男性 62.9%、女性 45.4%となっている。(図 3-10-2)

図3-10-2 配偶者からの暴力に対する  
相談先 内訳 (複数回答)



### 3 配偶者からの被害経験について

(人)

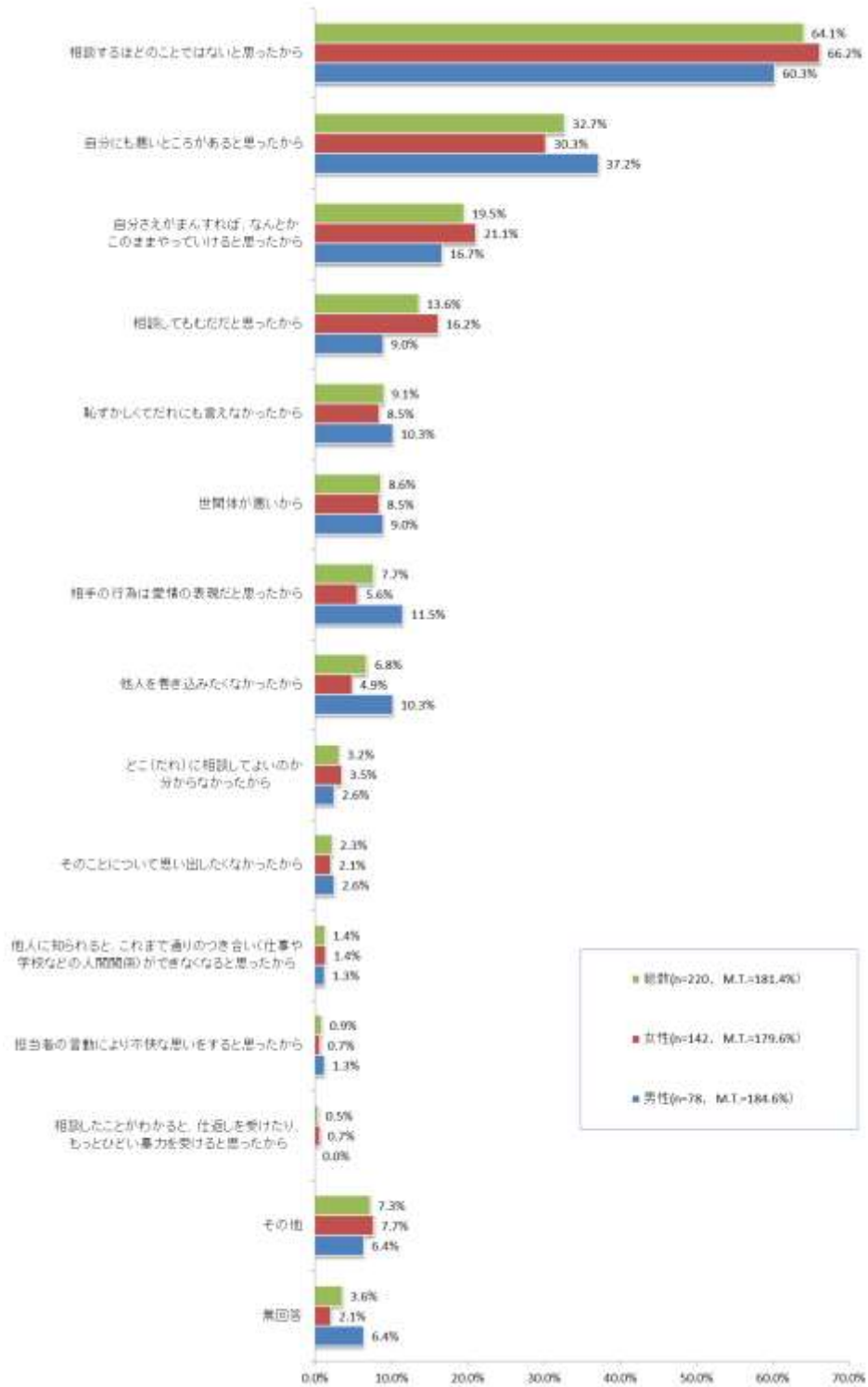
	男性(n=124)	女性(n=313)	総数(n=437)
警察に連絡・相談した	0	3	3
法務局(人権擁護委員など人権相談窓口)に相談した	0	1	1
県女性相談センター(配偶者暴力相談支援センター)に相談した	0	2	2
県健康福祉センターに相談した	0	0	0
県男女共同参画センターあざれあ、静岡市女性会館(アイセル21)などの男女共同参画のための総合的な施設(女性相談窓口)に相談した	0	3	3
市役所(福祉事務所、市民相談、保健所など)に相談した	1	4	5
裁判所に相談した	2	3	5
民間の機関(弁護士会、民間シェルター)に相談した	2	4	6
民生・児童委員に相談した	0	1	1
医療関係者(医師・看護師)に相談した	0	6	6
学校関係者(教員・養護教員・スクールカウンセラー)に相談した	0	2	2
家族や親戚に相談した	7	67	74
友人・知人に相談した	5	72	77
その他	3	9	12
どこ(だれ)にも相談しなかった	78	142	220
無回答	31	47	78

(11) 相談しなかった理由

配偶者からの被害を「どこ（だれ）にも相談しなかった人」（220人）にその理由を聞いたところ、全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」（64.1%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（32.7%）、「自分さえがまんすれば、何とかこのままやっていけると思ったから」（19.5%）の順となっている。（図3-11-1）

問7-⑨ どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

図3-11-1 配偶者からの被害を相談しなかった理由（複数回答）



(人)

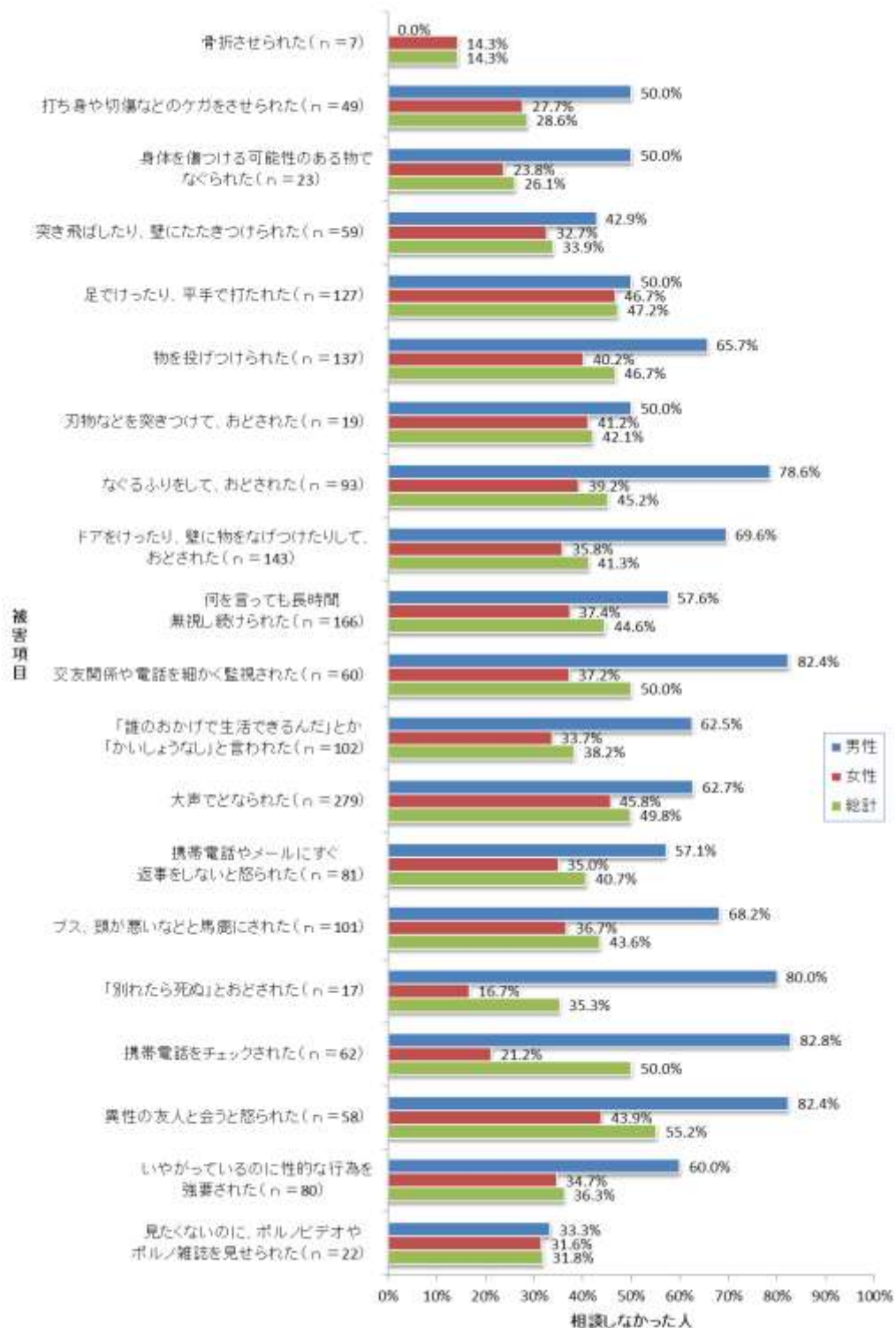
	男性(n=78)	女性(n=142)	総数(n=220)
どこ(だれ)に相談してよいのか分からなかったから	2	5	7
恥ずかしくてだれにも言えなかったから	8	12	20
相談してもむだだと思ったから	7	23	30
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから	0	1	1
担当者の言動により不快な思いをすと思ったから	1	1	2
自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	13	30	43
世間体が悪いから	7	12	19
他人を巻き込みたくなかったから	8	7	15
他人に知られると、これまで通りの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなると思ったから	1	2	3
そのことについて思い出したくなかったから	2	3	5
自分にも悪いところがあると思ったから	29	43	72
相手の行為は愛情の表現だと思ったから	9	8	17
相談するほどのことではないと思ったから	47	94	141
その他	5	11	16
無回答	5	3	8

(被害項目別 相談しなかった人の割合)

配偶者から暴力等の被害を受けた人のうち、相談をしたかどうかを被害項目別にみると、「骨折させられた」(14.3%)以外は、相談に至らない場合が多い。

男女別にみると、男性では、ほとんどの項目に対して、半数以上の人相談していない状況にあり、項目によっては8割に及ぶ。女性では、男性に比べ、どの項目でも相談しなかった人は少ないものの、3～4割の人が被害について相談をしていない。(図3-11-2)

図3-11-2 配偶者からの被害項目別 相談しなかった人



### 3 配偶者からの被害経験について

(人)

	男性				女性			
	相談し なかつ た人	相談し た人	無回答	総計	相談し なかつ た人	相談し た人	無回答	総計
骨折させられた	0	0	0	0	1	6	0	7
打ち身や切傷などのケガをさせられた	1	0	1	2	13	31	3	47
身体を傷つける可能性のある物でなぐられた	1	0	1	2	5	14	2	21
突き飛ばしたり、壁にたたきつけられた	3	1	3	7	17	31	4	52
足でけったり、平手で打たれた	10	4	6	20	50	51	6	107
物を投げつけられた	23	7	5	35	41	50	11	102
刃物などを突きつけて、おどされた	1	0	1	2	7	9	1	17
なぐるふりをして、おどされた	11	1	2	14	31	40	8	79
ドアをけったり、壁に物をなげつけたりして、おどされた	16	4	3	23	43	66	11	120
何を言っても長時間無視し続けられた	34	8	17	59	40	50	17	107
交友関係や電話を細かく監視された	14	2	1	17	16	23	4	43
「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われた	10	4	2	16	29	50	7	86
大声でどなられた	42	11	14	67	97	95	20	212
携帯電話やメールにすぐ返事をしないと怒られた	12	3	6	21	21	36	3	60
ブス、頭が悪いなどと馬鹿にされた	15	3	4	22	29	44	6	79
「別れたら死ぬ」とおどされた	4	1	0	5	2	7	3	12
携帯電話をチェックされた	24	4	1	29	7	23	3	33
異性の友人と会うと怒られた	14	1	2	17	18	18	5	41
いやがっているのに性的な行為を強要された	3	0	2	5	26	39	10	75
見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	1	0	2	3	6	11	2	19